

AFPYだより

第 6 号

H27.5.26

Adventure Friendship Program in Yamaguchi

山口県教育庁 義務教育課
社会教育・文化財課

日常の風景から

今年4月はじめの、とある高校での様子です。新一年生全員を対象に特別活動が行われました。休憩時間を終えた生徒たちが続々と体育館に集まってきます。指導者はあえて整列することを呼びかけずに様子を眺めることにしました。すると、体育館内のあちらこちらに大小さまざまな人数のまとまりがいくつもできあがりしました。

さて、この風景から生徒のどのような状況が“見える”でしょうか。

“見える”もの

「Big Map」と呼ばれる活動があります。文字どおり、大きな地図を想像し、移動する活動です。

生徒の皆さんに、体育館を大きな白地図に見立て、それぞれの出身中学校の場所に立ってもらいました。そこにある風景は、「同じ場所に何人も生徒が立っている」「1人だけが立っている」「離れた場所に立っている」でした。

当然、同じ中学の出身者がいるところと1人だけのところでは、明らかに生徒の表情が違うことが“見えて”きました。



“見える化”の醍醐味

指導者が「整列して待つ」と指示をあえて行わず、生徒の動きに任せてみることで子どもたちの状況が“見えて”きます。“見える”からこそ、今後の生活が充実していくために必要な視点や課題が明らかになり、AFPYのアクティビティなどとおして、安心・安全な環境の下での子どもたちの挑戦をサポートしていくことができます。

子どもたちの行動には必ず何かしらの“意味”が隠れています。その意味の発見が“見える化”の醍醐味だと思います。

感じたことを 今後の学びに

さきの高校生の活動後の感想です。「いろいろな立場の人がいて、今日までの安心感も違っていたのだと改めて感じた。相手を思いやる気持ちを大切にしていきたい」「(自身が卒業した)中学校から1人だけの入学だったけれど、不安だったのは自分だけではなかったのだと安心して安心した。これからもどんどん仲間をつくっていきたい。」

体験的な活動をとおして、実感として得た気付きだからこそ、今後にもしっかりつながっていくものだと思います。

体育館に集った高校生の皆さんに、これからますます充実した学校生活を送ってほしいと願っています。

～社会教育・文化財課のHPで、研修会の活動の様子や案内等をお知らせしています。～

AFPY|

検索

生徒会執行部員や部活動の長としての責任を自覚して、集団を盛り上げていくための手法と心構えを学んでみませんか。

《ねらい》 相手の気持ちを理解しながら、自分の思いを伝えてみよう。

『 手を合わせ 目を合わせて 人はつながる 』

教科・領域等	特別活動（生徒会活動）	時間	60分程度
準備物	なし		
活動の実際 ※留意点	<p>「手合わせ」一人のとき</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 胸の前で手を1回たたく。その後にひざを1回たたく。 ② 胸の前で手を2回たたく。その後にひざを1回たたく。 ③ 胸の前での回数を3, 4, 5回と増やしていく。 ④ 5回までいったら、次は4, 3, 2, 1回と減らしていく。 ⑤ 最後まで失敗しないでできたなら、「イエッ」と両手親指を立てて完成させる。 <p>「手合わせ」二人のとき</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 相手と向き合う。胸の前で手を1回たたき、その後相手と両手を合わせる。 ② その後は、一人のときと同じように行う。 <p>「手合わせ」四人、八人、十六人・・・と人数を増やしていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① みんなで輪を作り、胸の前で手を1回たたき、両手を互いに合わせる。 ② その後は、同じように行う。 ③ 手がそろわなかったら、最初からやり直す。 		
ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなができるようになるには、どうしたらいいだろうか？ ・他の人が失敗したときには、どうしたらいいだろうか？ ・自分の意見を出したり、他の人の意見を出したりすることができただろうか？ 		
継続的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員、キャプテン、部長が任命されて間もない冬休みから実施した。 ・目標達成のために活動し、うまくいったりいかなかったりすることを体験しながら、今後よりよい方向へ発展させていくための手立てを考え、実践していく態度に結びつけていった。 		
子どもたちの感想や変容、等	<ul style="list-style-type: none"> ・手合わせでは、「みんなで声を出そう」「ゆっくり」など、自分では考えなかった意見が出て、少しずつ協力しあい、絆が深まっていく雰囲気が出ていった。 ・手合わせでは、失敗することが多く、そのたびに「ごめんね」と謝った。そして、他の人が失敗したときには「大丈夫よ」と素直に言うことができた。 ・自分の声かけや動作で、集団や仲間を動かすことは大変だけれども、みんなで協力してできたときには、「とても気持ちよい」という感覚を味わうことができた。 ・リーダーとして、自分の行動に責任をもたなくてはいけないと強く思った。人を動かすには自ら率先して行動することが一番大切だと感じた。 		
実践者からのひとこと	<ul style="list-style-type: none"> ・各部活動や生徒会活動において、リーダーシップを発揮して、それぞれの集団が目標達成のために活性化していくことを期待して行った。また、子どもたちのリーダーから他の人たちへとどんどん伝授され、何事にも前向きに取り組み、他者と協働しながら新しい価値を創造する力を身に付けてほしいと願っている。 		

(山口市立川西中学校の神田教頭先生による実践)

